



布絵作家
宮谷 孝子さん
(甲南町耕心)

古い布にもう一度新しい輝きを

「色とりどりの布をさわっていると気分が落ち着くんです。」と話す宮谷孝子さん。使い込まれた古布を縫い合わせて作り上げる「布絵」を始め約20年になられます。もともと裁縫が得意で絵にも興味があった宮谷さん。日頃から何か自分の世界を持つことができたらと思っていたところ、ふるさとの風景画で有名な画家原田泰治さんの絵を見かけ、ひらめいたそうです。

きっかけは偶然でしたが、宮谷さんの熱意は大きく、原田さんに直接手紙を出して承諾をいただき、色鮮やかな原田ワールドに布絵で取り組まれました。「使い込んだ布には独特の風合いが出てきます。色あせも模様の一つです。色合いを考えながら作っていき、古い布が新しく生まれ変わるところが楽しいです。また、縫う位置が1ミリずれると雰囲気が変わってしまいます。そんなシビアなところもおもしろさの一つです。」と宮谷さん。1枚の絵を仕上げるのに数か月もの日数を有することもある大変な作業ですが、出来上がった作品は178点を数えます。その柔らかく温かい作品はまさに宮谷ワールド、今まで開催されてきた個展でも多くの人に温かい感動を与えています。

今では服を買うときから布絵の色合いを考えてしまうと苦笑いされる宮谷さんですが、「これからもとにかく毎日続けていきたいです。そして布の持つ温かさ、豊かさが伝われば幸せ、そんな気持ちで針仕事をしています。」と自らの生きがいとして活動される宮谷さん。これからも多くの人に温かい感動を与え続けられることでしょう。



▲宮谷さんオリジナル作品「おっかさま」

スポーツの秋広がる

～市内各地で運動会～



▲伴谷地区運動会(借り物競争)



▲しがらきエンジョイスports 2009(ニュースポーツ)

スポーツの秋、市内各地で運動会が開催される季節を迎えました。種目は多彩で、玉入れや障害物競走などのリレー、ニュースポーツ競技など誰もが参加できる種目が増えていきます。

休耕田の菜の花から搾油

～NPO法人「鹿深の杜」～

学校給食に使用してもらおうと、NPO法人「鹿深の杜」から市教育委員会に菜種油36リットルが届けられました。同法人では、食の循環型社会構築の取り組みを進めており、この菜種油も市内の休耕田約35アールで栽培した菜の花から収穫した菜種から搾油したものです。6月に行なわれた菜種の収穫には、伴谷スポーツ少年団も参加しました。(本紙7月1日号で紹介)



▲国松教育長に菜種油を贈る立岡 坦 理事長

混声合唱団と歌で交流

～鮎河小学校～

関西学院大学の混声合唱団「エゴラド」が9月1日、鮎河小学校を訪れ、コンサートが行われました。同コンサートは、音楽の楽しさや素晴らしいさを伝えるため、エゴラドが行う「歌声旅行」で同校を訪問し実現したものです。児童をはじめ、保育園児や地域の方も集まり盛大に行われました。

この日は、児童が校歌を合唱した後、エゴラドが「となりのトトロのメロデー」や「宇宙戦艦ヤマト」などおなじみの歌を合唱。そしてエゴラドからも鮎河小学校の校歌が披露されました。訪れた人は、いくつものコーラスが重なった美しい校歌の合唱に酔いしれました。



▲合唱する鮎河小学校児童とエゴラドの皆さん

防ごう交通事故 地域で啓発看板を作成

～信楽町中野区～

子どもたちや高齢者の方は、車社会の中で弱い立場にあります。これらの人々を地域のみんなが協力し合って守ろうと、このほど信楽町中野区で、交通安全看板を作成されました。同区には、国道307号や主要地方道などの幹線道路が通過、自家用車はもちろんのこと、大型トラックや観光バスなどの交通量も多く、区内の交差点でも交通事故が後を絶ちません。そのため、区独自で啓発事業に取り組みすることを決定、今回の看板による交通安全啓発事業の展開となったものです。

作成された看板は、2学期が始まるまでに区内の3箇所を設置されたということです。市交通安全協会では、こうした活動が信楽地域をはじめ、広く市内全域で展開され、地域での交通安全意識の高揚につながることを期待されています。



▲ためきが安全を呼びかける啓発看板

ダムのお魚が引っ越し

～大原ダム～

甲賀町にある大原ダムでは、今秋から堤体工事が本格的に始まるため、ダムの水を抜きながら下流の大原川へ魚を逃がす作業が行われています。しかし、ダムの中にも多くの魚が残っているため、9月12日、近くの堂ヶ谷池へ魚を移す作業が行われました。

築後、1回も空になったことがないといわれる同ダムの水がなくなるのは実に54年ぶり、この日は、観察会も行われ、家族連れらも多くの方が見物に訪れました。ダムからは全長80センチにもなるコイを始め、フナやカメなど多くの生き物が見つかり、無事引っ越しを終えました。



▲捕獲された魚を観察する参加者の皆さん



▲ダム内に残った魚の捕獲作業